

兵庫県福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名 称	財団法人大阪保育運動センター福祉サービス第 三者評価事業室
所 在 地	〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目2-2-202
評価実施期間	2011年11月18日～2012 年3月 17日 (実地訪問) 調査日 2012 年 1月 26日 2012 年 1月 31日
評価調査者	HF10-1-0037 HF10-1-0042 HF10-1-0043

※契約日から評価
結果の確定日まで

2. 福祉サービス事業者情報

(1) 事業者概要

事業所名称： (施設名) 太田共同保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者) 藤田京子	開設(指定)年月日： 昭和・(平成) 15年 4月 1日
設置主体： 経営主体：社会福祉法人おおた	定員 30人 (利用人数) 37人
所在地：〒654-0022 神戸市須磨区大黒町5丁目2-13	
電話番号： 078-736-3688	FAX番号： 078-736-3801
E-mail: gsp27597@nifty.com	ホームページアドレス： http://sumaoota.seesaa.net/

(2) 基本情報

理念・方針 児童福祉法に基づき、子育て支援センターの役割を果たせるよう地域に働きかけていく努力をする。 1人ひとりの子どもの最善の利益を大切にする。						
力を入れて取り組んでいる点 ・心身ともに健やかな身体を育てる。 ・保護者が安心して働けるようにする。 ・職員がいきいきと働けるようにする。						
職員配置 ※()内は非常勤	職 種	人 数	職 種	人 数	職 種	人 数
	施設長	1 ()	保育士	8 (4)	栄養士	1 ()
	事務員	(1)		()	調理員	1 ()
		()		()		()
施設の状況 保育時間7:00～7:00 特例保育・延長保育は要申請(延長保育は有料) 0歳は6ヶ月から。一時保育実施。3階建て、床暖房あり。近くに公園あり。						

3 評価結果

○総評

太田共同保育園は、山陽電鉄板宿駅に近い下町的な住宅街にあります。保育園の一角は1995年の震災時に焼失した地域で、今は比較的新しい家やマンションが多く見られます。

現在の保育園の前進である太田共同保育所（須磨区寺田町）は、1963年に切実な母親の願いに応じて無認可保育園として開設され38年間運営されました。1995年1月の震災では完全に倒壊しましたが、くじけず2月には再開にこぎつけました。常に働く母親とその子どもたちの味方であり続けた歴史があります。

2003年4月認可園として太田共同保育園が今の地（須磨区大黒町）でスタートしました。

理念は ①児童福祉法に基づき、子育てセンターとしての役割を果たすため地域に働きかける努力をする。

②私たち職員は、子どもに最善の環境を保障するため、保護者と共に学習し、保育に活かしていく。

◇特に評価の高い点

- ・保育にとって大切な職員同士の連携がよくとれているとおもわれました。（ヒアリングの中でも、又保育観察の中でも）
- ・職員研修にとっても力を入れて取り組んでいます。（園内・園外を問わず）
- ・種々のマニュアルについてこれまでやってきたことを手分けして整理し、みんなで確認するという大仕事をやりきった職員集団に敬意を表します。
- ・保護者アンケートが37人中34人と高回答率でした。多くの保護者が安心して保育園に預けているのが読み取れる回答でした。園の努力もしっかり裏付けられる内容でした。

◇特に改善を求められる点

- ・理念にも書かれている通り、「子育てセンターとしての役割」が求められています。地域のニーズの把握は勿論ですが、保育所の機能で還元できることは何か検討し、地域の人達が日常的に気軽にあそびに来たり相談できる場所になることを期待します。
- ・2歳児クラスの生活の場が1日を通してみるとよく変わっています。今年度の後半だから子ども達も元気にいきいき過ごしていましたが、新年度は出来る限り移動を減らして、落ち着いて過ごせるような改善を望みます。
- ・食事を大事にしているので、それを保障できる日課の組み方をして、より楽しく食べられるような工夫を望みます。

○ 第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回、私達は職員が一丸となって、月4～5時間のマニュアル作成のための学習を行ってきました。9年間の保育の総括ができ、とても意義あることでした。気づかなかった点を改めて、見直すことができました。共同保育所として、常に地域のニーズについては、職員全員が意識を持っていますが、現状は子育てサークルを実施することで、精一杯というところですが、今回を機に、積極的に一歩前進し、地域の子育て支援センターとなるように取り組みたいと考えています。子ども達が、安心して生活できることを、大切にすると共に、保護者や職員が安心して、働き続けられるように、共に学習していく姿勢を、持ち続けたいと考えています。

○各評価項目に係る第三者評価結果

（別紙1）

○各評価項目に係る評価結果グラフ（別紙2）

評価細目の第三者評価結果

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-1 理念・基本方針

	第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針を確立している。	
I-1-(1)-① 理念を明文化している。	Ⓐ・b・c
I-1-(1)-② 理念に基づく基本方針を明文化している。	Ⓐ・b・c
I-1-(2) 理念や基本方針を周知している。	
I-1-(2)-① 理念や基本方針を職員及び利用者やその家族等に周知している。	Ⓐ・b・c

特記事項

理念・基本方針は、パンフレット、入園のしおり、ホームページに明記しています。保護者には、毎年4月のクラス懇談会で、しおりを渡し園長が説明して周知しています。職員には、「職員ハンドブック」に載せ、園内研修で説明・討議しています。

当事業室が実施した利用者アンケートの結果を見ても、保育園の基本的な考え方や方針を「知らない」と答えた人はいなくて、「納得している」は回答者全員でした。「実際入所してみても、日ごろの保育サービスは基本的な考え方や方針と一致していますか？」という質問に回答者全員が「はい」と答えていました。

Ⅰ-2 計画の策定

	第三者評価結果
I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画を明確にしている。	
I-2-(1)-① 中・長期計画を策定している。	Ⓐ・b・c
I-2-(1)-② 中・長期計画を踏まえた事業計画を策定している。	Ⓐ・b・c
I-2-(2) 計画を適切に策定している。	
I-2-(2)-① 計画の策定を組織的に行っている。	Ⓐ・b・c
I-2-(2)-② 計画を職員や利用者に周知している。	Ⓐ・b・c

特記事項

乳児保育園を就学前までの保育園にすることを見通し、設計士による試算も出し計画を立てています。2歳児修了後、半年後に「同園会」を開き、交流をしたり保護者の意見を聞いたりしています。その中では、5歳まで保育して欲しいという声が多く聞かれています。毎年、事業計画の説明を年度初めの懇談会で行なっています。法人施設長会議や職員会議で討議し見直しを行なっています。

I-3 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果
I-3-(1) 管理者の責任を明確にしている。	
I-3-(1)-① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	Ⓐ・b・c
I-3-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
I-3-(2) 管理者のリーダーシップを発揮している。	
I-3-(2)-① 質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	Ⓐ・b・c
I-3-(2)-② 経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	Ⓐ・b・c

特記事項

<p>主任、クラスリーダー、また、職員直接からの意見を受け止め、保育の状況把握につとめ、園長としての意見表明を行うなどしています。</p> <p>毎月の保護者会役員会に出席し、園への保護者の意見を聞き、保育に反映しています。理事長と共に研修に参加し、同一労働同一賃金の学習の後、パートの賃金の改善につなげたこともありました。</p> <p>職員の働きやすい環境整備に、より一層取り組まれることを期待します。</p>

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 経営状況の把握

	第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	
Ⅱ-1-(1)-① 事業経営をとりまく環境を的確に把握している。	a・ Ⓐ ・c
Ⅱ-1-(1)-② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	Ⓐ ・b・c
Ⅱ-1-(1)-③ 外部監査等を実施している。	Ⓐ ・b・c

特記事項

私立保育園連盟や全国経営懇話会などの研修に参加し、福祉や保育の動向を把握しており、子育てサークルや一時保育の規模拡大など努力をしています。しかし、地域アンケートはこれから実施するようで、地域ニーズを十分把握しているとは言い切れません。今後、その結果も中長期計画に反映していくことを期待します。経営については、財政面の専門家の指導・助言を受けて、改善に取り組んでいます。

Ⅱ-2 人材の確保・養成

	第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 人事管理の体制を整備している。	
Ⅱ-2-(1)-① 必要な人材に関する具体的なプランを確立している。	Ⓐ ・b・c
Ⅱ-2-(1)-② 人事考課は客観的な基準に基づいて行っている。	Ⓐ ・b・c
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮している。	
Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みを構築している。	Ⓐ ・b・c
Ⅱ-2-(2)-② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	Ⓐ ・b・c
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制を確立している。	
Ⅱ-2-(3)-① 職員の教育・研修に関する基本姿勢を明示している。	Ⓐ ・b・c
Ⅱ-2-(3)-② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画を策定し、計画に基づいて具体的な取組を行っている。	Ⓐ ・b・c
Ⅱ-2-(3)-③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	Ⓐ ・b・c
Ⅱ-2-(4) 実習生の受け入れを適切に行っている。	
Ⅱ-2-(4)-① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	Ⓐ ・b・c
Ⅱ-2-(4)-② 実習生の育成について積極的な取組を行っている。	Ⓐ ・b・c

特記事項

同じ法人の保育園である枝吉保育所と人事交流を始め、両園の人材育成についてプランを持って臨んでいます。また、研修計画をしっかり立て、若い職員も研修で育っていることを職員からの聞き取り調査でも確認することが出来ました。今後は、中長期計画の中で、人材育成プランを具体的に位置づけ、人事考課を取り入れて、法人職員として全体の質の向上に繋がることを期待します。

II-3 安全管理

	第三者評価結果
II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取組を行っている。	
II-3-(1)-① 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制を整備し機能している。	Ⓐ・b・c
II-3-(1)-② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	Ⓐ・b・c

特記事項

安全委員会、衛生委員会を設置し、月1回開催して利用者の安全管理につとめています。職員は、ヒアリハット様式でその都度書いていました。その事例を安全委員会等で検討しています。今後も、未然に事故を防ぐため、安全点検を日常的に実施し、これらの委員会の継続と繰り返しの研修が望まれます。

II-4 地域との交流と連携

	第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係を適切に確保している。	
II-4-(1)-① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	Ⓐ・b・c
II-4-(1)-② 事業所が有する機能を地域に還元している。	a・Ⓑ・c
II-4-(1)-③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	Ⓐ・b・c
II-4-(2) 関係機関との連携を確保している。	
II-4-(2)-① 必要な社会資源を明確にしている。	Ⓐ・b・c
II-4-(2)-② 関係機関等との連携を適切に行っている。	Ⓐ・b・c
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズを把握し、事業・活動を行っている。	a・Ⓑ・c

特記事項

月1回の子育てサークルを開催し、離乳食や予防接種の学習会など子育て支援をしています。太田っ子祭りやもちつき大会などを通して地域との交流に努力しています。子育てボランティアの受け入れも積極的にしています。今後は、理念に基づき、地域の福祉ニーズをしっかりと把握し、より積極的に地域とのかかわりを持つことを期待します。

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢を明示している。	
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。	
Ⅲ-1-(2)-① 利用者の意向の把握と満足の向上への活用に取り組んでいる。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制を確保している。	
Ⅲ-1-(3)-① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-1-(3)-② 苦情解決の仕組みを確立し十分に周知・機能している。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-1-(3)-③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	Ⓐ・b・c

特記事項

<p>利用者を尊重する姿勢については、保育課程やしおりの中にも明示しています。プライバシー保護については規程・マニュアルも作成し、保育上必要と思われることについては、利用者から同意書をもらう等細かい配慮が見られます。保護者会役員会に毎月園長が出席し意見の把握につとめています。意見箱は保護者会と園で設置し、毎月チェックしています。保育参加のときには個人懇談も実施して、利用者の意向把握につとめています。利用者アンケートからも、「不満や要望を気軽に伝えることが出来る」「要望・意見をもとに改善が行なわれている」「子育ての悩みなど相談しやすいですか」などの質問に対し、圧倒的に「はい」の回答で「いいえ」はゼロだったことから、利用者本位の福祉サービスが確認できました。</p>

Ⅲ-2 サービスの質の確保

	第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取組を組織的に行っている。	
Ⅲ-2-(1)-① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-2-(1)-② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-2-(1)-③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法を確立している。	
Ⅲ-2-(2)-① 個々のサービスについて標準的な実施方法を文書化しサービスを提供している。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-2-(2)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みを確立している。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録を適切に行っている。	
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関するサービス実施状況の記録を適切に行っている。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制を確立している。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-2-(3)-③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	Ⓐ・b・c

特記事項

サービス内容について定期的に評価を行い、課題を明確にし、改善計画をたてる組織体制ができており、十分機能していることが会議録等で確認できました。
個々の子どものサービスについても、長い乳児保育の経験があるだけに、指導計画・記録とも的確にされていました。

Ⅲ-3 サービスの開始・継続

	第三者評価結果
Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始を適切に行っている。	
Ⅲ-3-(1)-① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	○a・b・c
Ⅲ-3-(1)-② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	○a・b・c
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	
Ⅲ-3-(2)-① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	○a・b・c

特記事項

利用希望者に対しては、ホームページによる情報提供もあり、見学者にはしおりに基づいていねいな対応をしています。サービス開始にあたっての説明も理解しやすい配慮がされています。

ほとんどの子ども達が3歳から近くの公立保育園に転園していく状況があるので、2歳クラスの間交流するなど保育の継続に配慮した取り組みの工夫が望まれます。夏に修了児と保護者と園で『同園会』を開いているのも有意義な取り組みです。

Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

	第三者評価結果
Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントを行っている。	
Ⅲ-4-(1)-① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	○a・b・c
Ⅲ-4-(1)-② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	○a・b・c
Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画を策定している。	
Ⅲ-4-(2)-① サービス実施計画を適切に策定している。	○a・b・c
Ⅲ-4-(2)-② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	○a・b・c

特記事項

サービス実施計画の策定にあたっては、決められた手順に従って行ない、課題を確認し、サービス実施計画を作り、クラス会議・職員会議・中間総括会議・年間総括会議等で、評価・みなおしをするしくみがあります。会議録等で適切に実施していることを確認しました。

評価対象Ⅳ 実施する福祉サービスの内容

Ⅳ-1 子どもの発達援助

	第三者評価結果
Ⅳ-1-(1) 発達援助の基本	
Ⅳ-1-(1)-① 保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(1)-② 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(2) 健康管理・食事	
Ⅳ-1-(2)-① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(2)-② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(2)-③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映している。	a・Ⓑ・c
Ⅳ-1-(2)-④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(2)-⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(2)-⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(2)-⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(2)-⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(3) 保育環境	
Ⅳ-1-(3)-① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(3)-② 生活の場に相応しい環境とする取組を行っている。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(4) 保育内容	
Ⅳ-1-(4)-① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(4)-② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(4)-③ 子どもが自発的に活動できる環境を整備している。	a・Ⓑ・c
Ⅳ-1-(4)-④ 身近な自然や社会とかかわれるような取組を行っている。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(4)-⑤ さまざまな表現活動が体験できるように配慮している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(4)-⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(4)-⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(4)-⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(4)-⑨ 乳児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(4)-⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	Ⓐ・b・c
Ⅳ-1-(4)-⑪ 障害児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・Ⓑ・c

特記事項

担任・主任でクラス会議を行い、月案・週案に評価反省を記録し、次の保育に生かしています。

毎日の朝夕の子どもの健康状態などの把握は、業務管理日誌に記入し、職員間の連絡を密にしています。体調により食事内容を変えたり、他児とは別室で保育するなどして対応しています。健康診断カードに健康の記録をし、健康診断の時は、質問事項を記入する用紙を保護者に渡し、嘱託医が直接答えを書いて返しています。歯科健診は、嘱託医の助言を受け、給食でかむ力をつける工夫をするなど取り組んでいます。歯の衛生に対する保育の中での取り組みを期待します。感染症の対応については、マニュアルを整備する中で、再確認して取り組んでいます。季節の食材やいろどりにこだわり、素材の味がわかる調理をしています。食器は陶器で、スプーンなどが乳児が使いやすいものになっています。アレルギー疾患を持つ子どもの誤食のないよう、うすピンクの食器（他児は白色）で区別しています。時間的余裕の配慮をするなどして、配膳や片付けに参加したり、食事に関心を持って楽しく食事をする取り組みをより充実することを期待します。

乳児保育園に相応しく各保育室の清掃がゆきとどき、清潔が保たれており子ども達が安定していました。職員の子どもへの言葉かけは穏やかで、子どもの気持ちを受け止めるようにされていました。生活発表会の予行練習で、子ども達が嬉々としてあそんでいる姿に感動しました。日頃から子どもの関係作りに努力している姿がうかがえました。

施設に限界がありますが、食事、睡眠、あそび等、出来る限り移動を減らし、子どもたち一人一人がやりたいことをみつけてあそべるような一層の工夫を望みます。そして、食事時間が遅くなりがちなデイリープログラムを見直し、乳児に相応しい生活リズムを確立するなど、保育の質の更なる向上を期待します。

IV-2 子育て支援

	第三者評価結果
IV-2-(1) 入所児童の保護者等への育児支援	
IV-2-(1)-① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	㉓・b・c
IV-2-(1)-② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	㉓・b・c
IV-2-(1)-③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	㉓・b・c
IV-2-(1)-④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている。	㉓・b・c
IV-2-(1)-⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	㉓・b・c
IV-2-(1)-⑥ 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	㉓・b・c

特記事項

保護者と職員が情報交換を密にし、子どもの成長を行事だけでなく、クラス懇談会（年3回）、保育参加+個人懇談の中でも、確認し合い共有する機会があります。共に子育てする関係があります。虐待対応については、マニュアルに基づいての対応が周知され、関係機関との連携も取れています。一時保育はニーズに応じて受け入れ幅を拡大したことは評価できるのですが、保育する場所等、ゆったりと落ち着ける保育の工夫が求められます。

IV-3 安全・事故防止

	第三者評価結果
IV-3-(1) 安全・事故防止	
IV-3-(1)-① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施している。	Ⓐ・b・c
IV-3-(1)-② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知している。	Ⓐ・b・c
IV-3-(1)-③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取組を行っている。	Ⓐ・b・c
IV-3-(1)-④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知している。	Ⓐ・b・c
IV-3-(1)-⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知している。	Ⓐ・b・c

特記事項

衛生管理マニュアル、食中毒マニュアル、事故防止マニュアル等々それぞれマニュアルは整備され、職員の中で確認されているものの、いざという時それが子どもの安全のためにいきるよう、1年の中で定期的に研修・周知しなおすことが必要です。また、避難訓練は、いろんな時間にあるような想定での経験が必要です。